報道関係各位

2025年6月2日

MIT テクノロジーレビュー主催の国際アワード「Innovators Under 35」日本版 2025 年度の募集開始

世界的な課題解決に取り組む 35 歳未満のイノベーターを募集
OpenAI 創業者や Tesla 初代 CTO も受賞した世界的アワード

MIT テクノロジーレビュー［日本版］（運営：株式会社角川アスキー総合研究所、代表取締役社長：加瀬典子）は、「Innovators Under 35 Japan 2025（イノベーターズ・アンダー35 ジャパン 2025）」の募集を、2025 年 6 月 2 日より開始します。

「Innovators Under 35」は、米国マサチューセッツ工科大学（MIT）のメディア部門「MIT テクノロジーレビュー」が主催する国際アワードです。世界的な課題解決に取り組み、未来を形作る“35 歳未満の若きイノベーター”の発掘を目的として 1999 年に始まりました。過去に OpenAI 共同創業者のイリヤ・サツケバー氏、Tesla 創業メンバーで初代 CTO の J.B.ストラウベル氏らも受賞した権威あるアワードとして、世界的に評価されています。

「Innovators Under 35 Japan」はその日本版として今年で 6 回目の開催となります。本年度は「コンピューター／電子機器」「ソフトウェア」「インターネット」「通信」「AI／ロボット工学」「輸送／宇宙開発」「エネルギー／持続可能性」「医学／生物工学」の全 8 分野で活動する 35 歳未満の起業家、研究者、活動家を募集します。

受賞者は、「Innovators Under 35」グローバル版にノミネートされ、2025 年 11 月に都内で開催する表彰式（Innovators Under 35 Japan Summit）で発表を予定しています。

代表的なグローバル版受賞者

・1999 年：iRobot 共同創業者　ヘレン・グライナー氏
・2002 年：Google 共同創業者　セルゲイ・ブリン氏
・2007 年：Facebook 共同創業者兼会長兼 CEO　マーク・ザッカーバーグ氏
・2008 年：Tesla 初代 CTO　J.B.ストラウベル氏
・2013 年：MIT 教授／CRISPR 共同開発者　フェン・チャン氏
・2015 年：OpenAI 共同創設者　イリヤ・サツケバー氏
・2017 年：Apple／元 Google 機械学習研究者イアン・グッドフェロー氏

日本版 2024 年受賞者

【AI／ロボット工学】
▶浅井 明里氏（ワシントン大学）
外部知識の活用で「幻覚」を抑制、LLM の信頼性向上に挑む検索拡張生成研究の先駆者。

▶伊藤 洋氏（日立製作所／早稲田大学）
人間の動きを効率的に学習する「深層予測学習」を大幅に拡張。人に寄り添うロボットの実現へ前進。

【コンピューティング】
▶アサバナント ワリット氏（東京大学／理化学研究所／OptQC）
光量子コンピューターで大規模な量子もつれを初実証、スタートアップでの商用化を目指す。

▶久保田 しおん氏（ハーバード大学／マンチェスター大学）
素粒子物理学の新時代を拓く「Q-Pix」プロジェクトをリードする気鋭の物理学者。

▶吉岡 信行氏（東京大学）
「量子優位性」の実用性を明らかにし、「現代の魔法」の社会実装に挑む挑戦者。

【輸送】
▶塚本 紘康氏（NASA ジェット推進研究所／イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校）
不確実性を克服する数学理論で、深宇宙探査の新時代を切り拓く若き研究者。

【エネルギー／持続可能性】
▶キーリー アレクサンダー竜太氏(九州大学／aiESG)
企業の ESG 活動を製品単位で見える化するツールを開発。豊富な国際経験で学術研究と社会をつなぐイノベーター。

▶孔 爽氏(理化学研究所)
水素の製造に欠かせない触媒の希少金属の使用を大幅に削減。グリーン水素の実用化・普及を牽引する研究者。

【医学／生物工学】
▶金井 仁弘氏(マサチューセッツ総合病院)
新型コロナウイルスの感染に潜む遺伝要因を紐解く国際研究をリード。将来のパンデミックへの備えを築く。

▶山岸 健人氏(東京大学)
皮膚や臓器に貼れる超薄膜エレクトロニクスを開発。アスリートの運動解析やがん治療も視野に。

※2020 年より開始となった日本版においても、各分野の最前線で活躍する数多くのイノベーターを表彰しています。

■2025 年度 応募要項

応募期間：2025 年 6 月 2 日（月）～2025 年 7 月 31 日（木）

対象分野：
【コンピューター／電子機器】量子コンピューター、IoT 機器、VR/AR 機器、カメラ、ディスプレイなどのデバイス等
【ソフトウェア】OS、ミドルウェア、アプリケーション（スマホアプリ含む）、ブロックチェーンなどの暗号技術等

【インターネット】インターネットを利用したサービス、Web サイト、および関連技術等
【通信】5G、通信衛星、量子ネットワーク、放送関連技術、光伝送技術等
【AI／ロボット工学】機械学習/深層学習などの AI 技術、産業用/家庭用ロボット、自律運転車等
【輸送／宇宙開発】人工衛星、宇宙船の開発/運用、宇宙探査、宇宙利用サービス、物流、ドローン等
【エネルギー／持続可能性】風力/太陽光発電、小型原子炉、蓄電池、冷暖房、淡水化、バイオマス等
【医学／生物工学】再生医療、遺伝子治療、医療用センサー、インプラント、義肢、脳インターフェイスなど

応募対象：上記８分野で活躍する、大学、スタートアップ企業、大企業、政府機関、非営利団体などに属する研究者、起業家、活動家で、35 歳未満（2025 年 12 月 1 日時点）の方

応募方法：下記応募サイトよりご本人が応募ください
※第三者による推薦（情報提供）も受け付けています。その場合も最終的には本人による応募が必須となります。

選考方法：MIT テクノロジーレビューの規定（グローバル共通）に基づき、厳正かつ公正な審査を実施
各分野の専門家（専門機関の研究者、大学教授など）が審査、MIT テクノロジーレビューが最終決定

選出人数：最大 10 人（2025 年 10 月発表予定）

選考者特典：以下特典が付与されます。

- 「Innovators Under 35」グローバル版へ審査対象としてノミネート
- 「Innovators Under 35」グローバルサイトへ日本版受賞者として掲載
- MIT テクノロジーレビュー[日本版]へ掲載
- 「Innovators Under 35 Japan Summit（都内で 11 月に開催予定）」で表彰

2025 年度審査員（五十音順）：

荒井朋子氏：千葉工業大学惑星探査研究センター 所長
江守正多氏：東京大学未来ビジョン研究センター 教授
大関真之氏：東北大学大学院情報科学研究科教授／東京科学大学理学院教授／シグマアイ代表取締役
太田 香氏：室蘭工業大学コンピュータ科学センター長／大学院工学研究科教授
Takashi Kiyoizumi 氏：カリフォルニア大学サンディエゴ校 JFIT エグゼクティブ・マネージャー
田中加奈子氏：アセットマネジメント One 株式会社 シニア・サステナビリティ・サイエンティスト
谷口忠大氏：京都大学大学院情報学研究科教授
中島秀之氏：札幌市立大学 学長
畠 賢一郎氏：再生医療イノベーションフォーラム代表理事副会長
松尾亜紀子氏：慶應義塾大学理工学部 教授
村上明子氏：AI セーフティ・インスティテュート所長／SOMPO ホールディングス株式会社執行役員常務グループ Chief Data Officer／損害保険ジャパン株式会社執行役員 Chief Data Officer

主催者メッセージ（MIT テクノロジーレビュー［日本版］編集長 小林 久）

「Innovators Under 35 Japan」も 6 回目の開催となりました。今年も「AI／ロボット工学」「エネルギー／持続可能性」「医学／生物工学」など 8 分野を対象に、U35 の優れた起業家や研究者、社会活動家を募集します。「Innovators Under 35 Japan」を通じて、MIT テクノロジーレビューは、変化を恐れず、日本の、そして世界の未来を切り開いていく新しいイノベーターを応援します。

新技術の開発や既存技術の創造的な応用によって、世界的な課題解決に取り組み、向こう数十年間の未来を形作る、独創的な 35 歳未満の若き起業家、研究者、活動家のご応募をお待ちしております。

Innovators Under 35 Japan 2025 応募サイト
https://events.technologyreview.jp/iu35/

※昨年度の開催実績はこちらからご覧ください
Innovators Under 35 Japan 2024：https://events.technologyreview.jp/iu35/2024/

■MIT テクノロジーレビューについて

『MITテクノロジーレビュー（MIT Technology Review）』は、1899年に米国マサチューセッツ工科大学によって創設された、世界で最も歴史と権威があるテクノロジー誌です。米国版の読者層はその8割超がテクノロジー部門の責任者であり、6割が経営層です。
日本版は米Technology Review Inc.とのライセンス契約のもと、株式会社角川アスキー総合研究所が2016年から会員制Webメディアとして運営しています。

［日本版］公式サイト
https://www.technologyreview.jp/

株式会社角川アスキー総合研究所について

角川アスキー総合研究所は、メディア運営やコンテンツ制作で培った知見を活かし、調査、コンサルティング、マーケティング、ビジネスソリューション、出版、教育支援など幅広く事業を展開しています。コンテンツ力、メディア力、リサーチ力を総合的に活用し、お客様の課題解決に取り組みます。
公式サイト：https://www.lab-kadokawa.com/

【本件に関する報道関係からのお問い合わせ】
株式会社角川アスキー総合研究所　広報担当 堀
press-cp@lab-kadokawa.com